

重症心身障害児の衣生活実態調査  
多屋淑子 ○佐藤真理子 中村博志  
(日本女大)

＜目的＞ 近年、障害を持つ人たちのQOLの向上を支援するため、様々な試みがなされている。衣服に関しては従来から、着脱が簡便でファッション性の豊かな障害児（者）用衣服の研究が進められているが、その多くは、身体機能にのみ障害を持つ人を対象とし、着脱動作を主に検討したものである。本研究では、心身ともに障害を持ち意思や感情の表現が困難な重症心身障害児にとって快適な衣服を提案するため、衣生活の実態調査を行った。

＜方法＞ 心身障害児総合医療療育センター内のむらさき愛育園の重症心身障害児12名について、衣服調査およびサーモグラフィによる体表面温度分布測定を行った。また、重症心身障害児の衣生活に対する介護者の意識について、中村らによる全国の重症心身障害児病棟を有する国立療養所病棟施設職員へのアンケート調査結果<sup>[1]</sup>を使用し、解析を行った。

＜結果＞ 所持している衣服の種類、素材、開口部の形などを詳細に調べ、障害の程度による比較および健常者との比較を行った。重症心身障害児の体型は健常者の標準体型と異なるため、選択する衣服のサイズに考慮が必要と思われた。施設職員へのアンケート結果から、介護者の職種により衣生活への視点は異なることが明らかになった。

[1]中村ほか：重症心身障害児（者）施設職員自己評価チェックリスト作成の試み，厚生省心身障害研究報告書平成3年度，p138-141